

令和3年度
学校関係者評価報告書
(第1回)

令和3年5月26日(水)

学校法人 九州総合学院
鹿児島情報ビジネス公務員専門学校

令和3年度 第1回「学校関係者評価委員会」報告について

鹿児島情報ビジネス公務員専門学校では、平成26年7月25日に学校法人九州総合学院に統合され、今年で35周年を迎えております。今後の更なる改善・向上を図るために、教育内容や学校運営に関する業務について、自己点検・評価に取り組み、本校のホームページ上で公表しております。

本日、第1回「学校関係者評価委員会」を開催し、本校に関連する企業・医療機関・卒業生及び保護者の方々に本校の教育活動や学校運営に関しまして貴重なご意見や提言等を賜り、今後の学校運営や評価の在り方について、改善を図るため努力してまいります。

現在、情報システム科26名、システム工学科（eスポーツ&IT）8名、総合ビジネス科25名、医療秘書科25名、公務員科81名、計165名と外国人84名が学んでおります。総在籍者249名の状況であります。

文部科学省では、令和3年3月25日、専修学校の専門課程における職業実践専門課程の認可を官報で告示しました。今回、本校の2年生課程の「情報システム科」が、文部科学省の認可を受けましたのでご報告いたします。

皆様のご尽力により、専門分野に関する企業・団体等との連携体制の確保などの諸要件を満たすことができこのような評価を得ることができました。誠に有難うございました。

本日は、以上のことを踏まえて、ご意見ご助言を賜り、今後に役立てて参りますのでよろしくお願いいたします。

令和3年5月26日

学校法人 九州総合学院
鹿児島情報ビジネス公務員専門学校
校長 小松 信明

1. 「学校関係者評価」の実施方法について

今回の「学校関係者評価」は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた評価項目に沿って実施した「令和元年度自己点検・評価報告書」について、本校に関連する企業等10名の評価委員（委員一覧表）に評価していただいた。

評価委員からの意見は、本校で組織する自己点検・評価委員会委員長（校長）および教職員が承り、その評価結果の内容等について要約の上、報告書として取りまとめた。

2. 学校関係者評価委員一覧表

(順不同・敬称略)

評価委員	会社（企業）名	役職名	任期	備考
久永 忠範	一般社団法人 鹿児島県情報サービス産業協会	会長	R4. 3. 31	株式会社 フォーエバー 代表取締役
吉崎 昌幸	有限会社ビーライン	代表取締役 社長	R4. 3. 31	(当日・欠席)
小森 昌章	特定非営利活動法人 鹿児島デザイン協会	理事	R4. 3. 31	株式会社 小森昌章 建築設計事務所 代表取締役
竹下 とみお	協業組合ドゥ・アート	代表理事	R4. 3. 31	
押井 啓一	南九州税理士会	副会長	R4. 3. 31	税理士法人 押井会計代表社員
川衛 斉	株式会社スリーイン ホテルアービック鹿児島	支配人	R4. 3. 31	
萬 英治	鹿児島医療経営研究会（KM M)	顧問	R4. 3. 31	一般社団法人鹿児島 県医療法人協会 協会立看護専門学校 /理事長 兼 社会医療法人緑泉会 /理事長室部長
馬場 俊孝	医療法人 上原クリニック	人事部長	R4. 3. 31	
前平 秀康	株式会社 土佐屋	取締役 総務部長	R4. 3. 31	卒業生 (当日・欠席)
小橋 美穂子			R4. 3. 31	保護者

3. 委員会次第（概 要）

（1）開会

（2）学校長挨拶

就任の挨拶と本委員会の目的について説明を行った。

（3）顧問挨拶

就任の挨拶を行った。

（4）委員紹介

各委員の紹介を行った。

吉崎 昌幸委員，前平 秀康委員はご都合により欠席された。

（5）委員長選任

株式会社スリーイン ホテルアービック鹿児島 川衛 斉委員を委員長に選出し，議長とした。

（6）令和元年度 学校自己点検評価報告

校長より，評価の変更の項目および，今後の取り組みについての報告を行った。

（詳細は後記のとおり）

（7）討議・意見交換

各評価委員から，報告に対するご意見・ご指摘をいただいた。

（詳細は後記のとおり）

（8）閉会

4. 評価の変更の項目および，今後の取り組みについての報告（校長）

・ 3 教育の実施体制 - 3（図書室・図書コーナー等があるか）

（昨年度 3 → 今年度 4）

5階学生ホールに図書コーナー「KBCC 文庫」を設置。学生が自由に閲覧できる本を約500冊準備した。内容としては，専門性よりも人間力の形成，教養を主眼としたものをそろえている。また，円卓を5卓，カウンター席を新たに8脚設置し，座ってゆっくり本が読める環境を整えた。

・ 3 教育の実施制度 - 5（就職支援を行うための指定された場所があるか）

（昨年度 3 → 今年度 3）

建物内の部屋はすべて使用されており，就職支援を行うための場所を作るための空き教室がない。現在は放課後に教室やロビーに準備してあるコーナーを使用している。また，就職の面談指導では校長室を積極的に利用するようにしている。

・ 5 学生支援 - 18（卒業生の会（同窓会等）はあるか）

（昨年度 2 → 今年度 2）

現在卒業生総数は4784名。35周年を迎えるにあたり，昨年8月にOB職員（富永，木原，南迫）で会議を行い，準備委員として目的，組織図，活動方針などを検討した。その後は進んでおらず，今後知恵をお借りしながら具体化していきたい。

- ・ 5 学生支援 - 2 0 (卒業生への講習・研修を行っているか)
 (一昨年度 2 → 昨年度, 今年度 3)
 企業からの要請で新入社員へのマナー指導を行うなど, 連携への方策は見えている。
- ・ 5 学生支援 - 2 3 (保護者の会 (後援会等) はあるか)
 (昨年度 2 → 今年度 2)
 三者面談という形で個別対応はしてるが, 組織としての保護者会というものはない。どのようにしたら専門学校に適した保護者会ができるか模索している。現在はKBCC 便りを送付し, 行事などの情報は細やかに流している。
- ・ 5 学生支援 - 2 4 (企業の会 (就職後援会等) はあるか)
 (昨年度 3 → 今年度 3)
 職業実践専門課程認定校として連携を強める方策を模索していく。(顧問)
 <職業実践専門課程の具体的な要件>

 - ① 修業年限が2年以上
 - ② 専攻分野に関する企業, 団体等との連携体制を確保して, 授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること
 - ③ 企業等と連携して演習・実習等を実施
 - ④ 総事業時間数が1700時間以上又は総単位数が62単位以上
 - ⑤ 企業等と連携して, 教員に対し, 実務に関する研修を組織的に実施
 - ⑥ 企業等と連携して, 学校関係者評価と情報公開を実施
- ・ 6 社会的活動 - 5 (社会的活動 (地域活動, 地域貢献, ボランティア活動等) を評価の上, 単位認定しているか)
 (昨年度 2 → 今年度 2)
 社会的活動を単位認定する評価基準を模索中であり, 進展していない。
- ・ 7 管理・運営 (各校) - 2 (個人情報をはじめ各種情報の保護のためのセキュリティ等対策が適切に取られてるか)
 (昨年度 3 → 今年度 4)
 ハード面に関しては外部からの侵入を防止するためにファイヤーウォールを導入した。外部者がアクセスできないように各自のアクセス権を持ち, 個人情報は守られている。
- ・ 7 管理・運営 (各校) - 8 (公印管理簿があるか)
 (昨年度 3 → 今年度 4)
 台帳を作り管理している。
- ・ 7 管理・運営 (各校) - 1 0 (物品 (消耗品, 貯蔵品等) 等の在庫管理を実施しているか)
 (昨年度 3 → 今年度 3)
 消耗品は, 入出庫の数量管理はおこなっているが棚卸はしていない。

5. 討議・意見交換について

各評価委員から、様々な視点からご意見・ご指摘をいただいた。

■久永委員

- ・ 評価が4のものについてもブラッシュアップしていかないといけない。4を付けている項目に課題はないのか。

(校長)

質が劣化していないか、更なる改善が必要か等について、教職員からも意見を募りたい。

(久永委員)

4の項目についても課題と改善点が見えてくると、もっとよくなるのではないか。

- ・ 保護者会、同窓会については、他校がどのように組織運営されているか参考にしてみてもどうか。

(川衛委員長)

自身の出身校や他の専門学校にも同窓会組織があり、HP上に身上変更の入力フォームなどもある。同窓会組織は必ず必要というわけではないが、九州や全国各地で同窓生が活躍しているというのは励みになる。ぜひ他校を参考に検討してほしい。

■小森委員

- ・ 社会的活動を評価の上、単位認定しているかが、3年連続で2であるが、できない理由があるのか。

(校長)

具体的にボランティア活動と認められる基準がなく、ボランティア活動の実像が見えない。また、カリキュラム上授業の一環として時間もとれず、なにかいい方法がないか知恵をお借りしたい。

(小森委員)

ボランティアの定義は多岐にわたる。例えば、年に2、3回参加したボランティア活動を自己申告する機会を設けてみてはどうか。学生にとっても他の人の活動を知ることはよいことではないか。

(校長)

社会的活動を単位として認定するには、内容、時間などの基準が必要である。

(小森委員)

始めるきっかけとして、アクションを起こしてほしい。

(顧問)

実習がある学科の実習、インターンシップは単位認定しやすいが、ボランティア活動は漠然とし過ぎているうえにカリキュラムに位置付けるわけにもいかない。教育課程外のことを単位認定するという考え方に立たねばならず、その基準は大変難しい。

(小森委員)

単位認定は次の段階であり、まずはボランティア活動をしている学生がいるということをつとめることからである。

(顧問)

まずは参加させることを先にしたい。

(馬場委員)

いきなり単位として認定するのはかなり難しい。例えば、ポイント制にして申告したらポイントがたまり、それに応じて景品を渡すということをしてはどうか。

(顧問)

公務員科はボランティア活に積極的に参加させているのではないかと。

(小菌)

学生に強制ではなく、ボランティア活動についての情報を流し、自主的に参加するように促している。公務員試験での面接でボランティア活動の有無が聞かれるため、積極的に参加している学生もいる。

(顧問)

公務員科に関しては、試験対策と直結している。

(小森委員)

なんらかのアクションは必要ではないかと。

(校長)

社会活動としておはら祭など行事参加はしている。

(水町)

日本語科は社会活動として、川内幼稚園で学童保育の小学生と自国の文化紹介や日本のゲーム体験など文化交流をした。

(校長)

公務員科、日本語科をヒントに検討していきたい。

■竹下委員

- ・ 全体的に努力している。今後は4が3に変わらないように頑張ってもらいたい。

■押井委員

- ・ 評価項目には基準があるのか。また、絶対にできないだろうという項目に関して、項目の削除等はないのか。

(谷川)

文部科学省が定める基準に即している。項目の選定は可能で、今までも自校に合わないものは外すなどしている。

- ・ 同窓会は今年の卒業生から始め、少しずつ規模を大きくしていてもいいのではないかと。いきなり全体を作るのではなく、まず会長、副会長と世話役を決め、まずは小さい同窓会を作り、どんどん大きくしてってもらいたい。保護者会についても、学生たちの学内での様子や就職状況など、保護者が知りたい情報を流すというところから始めてもいいのではないかと。企業の会もまた同様であり、同窓会、保護者会、企業の会の3点は今年中にでも解決できる問題である。

(川衛委員長)

ぜひ検討してほしい。

- ・ ボランティア活動についても、ロータリーでは学校のタイアップをしている。ロータリーと組むとやりやすいのではないかと。それをいかに評価して点数化するかと、単位認定の基準など、とりあえずやってみてほしい。

■小橋委員

- ・ 保護者会について、保護者としては18歳を超えた子のために学校で集まるのは難しい。子どもが学校でどのように過ごしているかなど、親として知りたい情報を多く発信してもらえればと思う。

■馬場委員

- ・ 職業実践専門課程の要件のうち3つが「企業等と連携して」となっている。2（教育の内容）の2.2（企業・地域・行政との連携を図っているか）が4だが、具体的にはどのように連携しているのか。

（谷川）

行政については、県庁の学事法制課から学生支援の情報などをもらっている。地域については、照国神社表参道通り商店街に所属しており、会合に参加したり、地域行事に参加したりしている。企業については、企業向けのマナー講座などの依頼を受けている。

（校長）

就職後の事後指導なども行っている。

（顧問）

病院実習や山形屋実習など、現場実習はまさに企業との連携である。

■萬委員

- ・ 経営が健全であるかは非常に大きなマネジメントの要素である。その一つとして、財務は健全か。

（谷川）

修学支援制度の規定に基づき、財務報告はHP上で公開している。

- ・ 職員のレベル向上を図り、教育の質を上げているか、また、人事について評価はどうしているか。

（顧問）

人事考課は昨年度より導入している。学校と教師の質の向上を図るために、お互いに問題点を共有し改善していこうという考え方である。評価ではなく、人材育成、教育の質を高めるというのを第一前提とし、年に2回行っている。学校の目標である学生・保護者の満足度を高めるというのを第一優先としている。

討議・意見交換終了。

ご指摘・ご提言いただいたことを真摯に受け止め、より良い環境を作るべく検討することを伝え、閉会した。

—以 上—

記録：松下